

水野事務主任の定年にむけて

平原茂子・渡辺隆之(植物園)

植物園本館改修後の真新しい机や椅子の納入と同時に着任されたのが水野事務主任でありました。着任早々の昭和59年10月15日には、『植物園300年記念と本館改修の完成披露』が行われ、その式典の為の準備は前主任がなされ、詰めの段階と当日を新主任に引継いで行うことになった行事でした。植物園は過去に『植物園一般公開90週年記念』の行事があって以来23年振りのことであり、さらに本館改修完成披露も加えた形での行事を着任早々成しえて、植物園事務主任としてのスタートをして今日までこられたわけであります。

過去の事務主任の内、この時の事務主任ほど短期間に多くの行事に当たられた事務主任はなかったと思います。

昭和59年10月に行なわれた植物園300年記念及び本館改修披露をはじめ、昭和60年9月のムニンノボタン引渡式、昭和60年11月の第一回国際生物学賞記念シンポジウム、昭和62年2月のニュートンのリンゴの木贈呈式など、植物園外での対応を迫られる事業が相次ぎ、いずれも準備段階に当たって種々用意するものから、関連する方への通知文書のリストアップを受けて発送や回収作業のまとめや当日の来客への気くばり、進行に当たっての配慮など一般職員とは違った意味での気苦労が事務主任には多かったのではと思い出されます。

しかしながら、昭和25年東京大学に入職以来、事務局会計課より出発して、施設部、経理部、工学部附属原子力工学研究施設、物性研究所と歴任され、その豊富なご経験から、植物園での行事も滞りなく終了した。それは、昭和59年10月1日～昭和63年3月31日の3年6ヶ月という短い期間でしたが、植物園を象徴する様な行事が目白押しする中で過ごされたといっても過言ではない様な気

がする。

また、植物園における特殊事情、すなわち大学事務の他に公開業務があり、近隣の住民との接触が必要ということがある。

例えば、秋になると周辺住民からの落葉の苦情があり、それを受けるだけでも心労が多いと推察されますが、その場へ向いて住民の方からの話しを伺い状況を見られたりして、住民側と植物園との接点を見出して大学側へその要望書をお持ちになり努力されていた主任の姿が印象的でした。この約16万㎡もある面積の塀際周辺の樹木を整備することは、植物園内の植生配置に関する整備にも関連するものでもあり、落葉の件ばかりでなく、植物園にある特殊事情を考えますと大変なご苦労だったと思われます。その後、大学側への要望が響き整備が開始となったことは、主任の努力が報われたこととして特筆すべきことと思いました。

さらに、前理学部長の示唆によって始められた入園者からの意見の導入の件も『ご意見箱』と称して、植物園正門に箱をおかれ、一般の方が書かれた意見にも熱心に目を通されるなどして、多数の意見をもとに改善策を考え、先生方や技官の方との意見を合わせて、公開植物園としての任務がある以上、大学事務はもちろん、一般の方との協調が必要不可欠であるという意見を秘めながら行動する主任にとって、業務が十分果たせる様に対応したらよいかを心配されている姿もありました。

最後に水野事務主任にとって、自らの最大の行事、定年退職を迎えることになったわけですが、私達が水野事務主任といっしょに仕事をさせていただいた約3年あまりの間に、上司として、人生の先輩として、多くのことを教えていただき、本

当にありがとうございました。そして、退職後は歴史の好きな主任らしく故郷名古屋の歴史散歩を計画しているご様子で、愛妻弁当をおいしそうに召し上がりながら熱く語られる主任に長いお勤め

お疲れ様でしたと申し上げる次第です。そして、第二の人生を末永くどうぞ健康で過ごされますようにと祈るばかりです。